

図書館だより

令和3年6月2日

6月号

久米島西中学校図書館

～6月の読書目標～

戦争と平和について

考えよう



平和月間

～世界が平和になるために、「今」の私たちにできることは…～

今年で戦後76目を迎えます。6月23日は沖縄戦の組織的な戦闘が終結したとされ、沖縄県が『慰霊の日』と決めました。それから長い月日が流れ、皆さんには自分達とは関係ない遠い出来事のように感じるかもしれません。しかし、確かにこの国、この島で多くの命が消え、辛いときを生き抜いてきた人々がいたのです。その人々のおかげで、今の私たちがいます。かつての戦争についてだけでなく今後の平和について考えるため、関連図書を読みましょう。

戦争・平和に関する本



「沖縄戦

久米島の戦争」

徳田球美子・編

陸軍中野学校出身の残置諜報工作員が送りこまれ、住民20人が「スパイ容疑」で殺害された。終戦後の8月20日には朝鮮人家族7人の皆殺しも行われた。住民虐殺は日本軍による組織的犯罪であった。久米島の沖縄戦の記録。



「戦時中の日本」

彩図社・編

戦艦の上で開催された相撲大会、当時の「ポップ」だった軍歌、娯楽グッズ「愛国かるた」...。太平洋戦争開戦前から終戦まで、一刻一刻と戦況が悪化していくなかで、懸命に生きた人々の暮らしを追う。



「世界と日本の戦争遺産」

歴史学習研究会・著

原爆ドーム、硫黄島、ノルマンディー上陸作戦記念館、ボスニア紛争跡...。二度の世界大戦の戦跡を中心に、軍事施設跡や内戦の爪痕など、世界と日本の戦争遺産をビジュアルで紹介する。



「ぼくたちは、なぜ学校へ行くのか」

石井光太・著

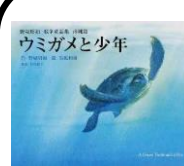
2012年、パキスタンで教育を受ける権利を主張しつづけた15歳の少女、マララ・ユスフザイさんが銃で頭を撃たれた。マララさんが国際連合で行った演説から、子どもが学校へ通うことの意味を考える。



「ガラスのうさぎ」

高木敏子・著

東京大空襲で母と妹を失った敏子は、さらに機銃掃射で父までも亡くす。取り残された少女は、家族のためにも生きぬこうと決意する。平和への祈りをこめた愛と感動の物語。



「ウミガメと少年」

野坂昭如・著

沖縄戦のさなか、砂浜で産卵するウミガメを見て、砲撃から卵を守るためガマに運ぶ哲夫。純粋な思いの一方で哲夫は飢えに苦しんでいました。多くの子どもたちの命を奪った戦争とは何だったんでしょう。



「あの日、僕は戦場で」

NHKスペシャル制作班・編

戦時下の沖縄で、幼い子供たちが兵士とされ、戦場でゲリラ兵として戦っていた。少年たちは、あまりにも凄惨な戦場での体験を、誰にも話すことができずに心の奥にしまい込んでいた。その元少年兵たちが、戦後70年経った今、「戦争の記憶を伝えたい」と事実を語ってくれた。



「戦争めし」

魚乃目三太・著

子供たちや若い世代へ語りつづきたい「昭和ニッポン人」の温かい食物語。激動の時代でも戦地や食卓には愛や笑顔もあった。「幻のカツ丼」「肉なし肉じゃが」など。「あの時代」と「あの食べ物」の秘話を紡いだ珠玉の短編作品集。



見て！ 知って！ 学ぼう！

地球環境

6月5日は「世界環境デー」

まずは、身近な自然から！

